



# **SnapManager の設定パラメータ**

## SnapManager Oracle

NetApp  
November 04, 2025

# 目次

SnapManager の設定パラメータ	1
設定パラメータを編集する	8

# SnapManager の設定パラメータ

SnapManager には、要件に応じて編集可能な設定パラメータのリストが用意されています。構成パラメータは、smo .config ファイルに保存されます。ただし、smo .config ファイルに、サポートされる設定パラメータがすべて含まれているわけではありません。要件に応じて構成パラメータを追加できます。

次の表に、サポートされるすべての SnapManager 構成パラメータと、それらのパラメータを使用する状況を示します。

パラメータ	説明
<ul style="list-style-type: none"><li>hourly.count のままにします</li><li>hourly.duration を保持します</li><li>retae.month.count を使用します</li><li>毎月の期間を維持します</li></ul>	<p>これらのパラメータは、プロファイルの作成時に保持ポリシーを設定します。たとえば、次の値を割り当てることができます。 retain.hourly.count=12 retain-hourly.duration = 2 のままにします retain.month.count=2 retain.month.duration = 6</p>
restore.temporaryVolumeName	<p>このパラメータは、一時ボリュームに名前を割り当てます。 SnapManager でセカンダリストレージからデータをリストアする間接的な方法を使用する場合、プライマリストレージには、データベースファイルにコピーされてデータベースがリカバリされるまでの間、一時的なデータのコピーを保持するボリュームが必要になります。 デフォルト値はありません。 値を指定しない場合は、リストアコマンドで間接方式を使用する名前を入力する必要があります。 たとえば、次の値を割り当てることができます。 restore.temporaryVolumeName=smo_temp_volume</p>
host.credentialers.persist	<p>このパラメータは、 SnapManager にホストクレデンシャルを格納するかどうかを指定しデフォルトでは、ホストクレデンシャルは格納されません。ただし、リモートクローンで実行され、リモートサーバにアクセスする必要があるカスタムスクリプトがある場合は、ホストクレデンシャルを保存する必要があります。 ホストクレデンシャルの保存を有効にするには、 host.credential.persist に true を割り当てます。 SnapManager は、ホストクレデンシャルを暗号化して保存します。</p>

restorePlanMaxFilesDisplayed を実行しました	<p>このパラメータを使用すると、リストアプレビューに表示するファイルの最大数を定義できます。デフォルトでは、SnapManager のリストアプレビューに表示されるファイルの最大数は 20 です。ただし、0 より大きい値に変更することはできます。たとえば、次の値を割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• restorePlanMaxFilesDisplayed = 30</li> </ul> <p> 無効な値を指定すると、デフォルトのファイル数が表示されます。</p>
snapshot.list.timeout.min	<p>このパラメータを使用すると、SnapManager 操作の実行時に SnapManager が snap list コマンドの実行を待機する時間を分単位で定義できます。デフォルトでは、SnapManager は 30 分間待機します。ただし、0 より大きい値に変更することはできます。たとえば、次の値を割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• snapshot.list.timeout.min = 40</li> </ul> <p> 無効な値を指定した場合は、デフォルト値が使用されます。</p> <p>SnapManager 処理で、snap list コマンドの実行時間が snapshot.list.timeout.min に割り当てられた値を超えると、タイムアウトエラーメッセージが表示されて処理が失敗します。</p>
prunelfFileExistsInOtherDestination	<p>このプルーニングパラメータを使用すると、アーカイブログファイルの宛先を定義できます。アーカイブログファイルは、複数の保存先に保存されます。アーカイブ・ログ・ファイルを削除する場合、SnapManager はアーカイブ・ログ・ファイルのデスティネーションを認識している必要があります。割り当てることができる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指定したデスティネーションからアーカイブログファイルを削除する場合は、 prunelfFileExistsInOtherDestination に false を割り当てる必要があります。</li> <li>• アーカイブログファイルを外部デスティネーションからプルーニングする場合は、 prunelfFileExistsInOtherDestination に true を割り当てる必要があります。</li> </ul>

prune.archivelogs.backedup.from.otherdestination	<p>このプルーニングパラメータを使用すると、指定したアーカイブログ送信先からバックアップされるアーカイブログファイル、または外部アーカイブログ送信先からバックアップされるアーカイブログファイルをプルーニングできます。割り当てることができる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定したデスティネーションからアーカイブログファイルを削除し、-cprune dest を使用して指定したデスティネーションからアーカイブログファイルをバックアップする場合は、prune.archivelogs.backedup.from.otherdestination に false を割り当てる必要があります。</li> <li>・指定したデスティネーションからアーカイブログファイルを削除する場合、およびアーカイブログファイルが他のいずれかのデスティネーションから少なくとも 1 回バックアップされる場合は、prune.archivelogs.backedup.from.otherdestination に true を割り当てる必要があります。</li> </ul>
最大 .archivelog .files.toprun.atATime	<p>このプルーニングパラメータを使用すると、指定した時間にプルーニングできるアーカイブログファイルの最大数を定義できます。たとえば、maximum.archivelog.files.toprune.atATime=998 という値を割り当てることができます</p> <p> 最大 .archivelog.files.toprun.atATime に割り当てることができる値は、1000 未満である必要があります。</p>
archivelogs.Consolidate を実行します	<p>このパラメータを使用すると、archivelogs.Consolidate に true を割り当てた場合に、SnapManager は重複するアーカイブログのバックアップを解放できます。</p>
サフィックス -backup.label.with .logs	<p>このパラメータでは、データバックアップとアーカイブログバックアップのラベル名を区別するために追加するサフィックスを指定できます。たとえば、サフィックス -backup.label.with .log にログを割り当てるとき、アーカイブログのバックアップラベルにサフィックスとして _logs が追加されます。アーカイブログのバックアップラベルは arch_logs になります。</p>

backup.archivelogs.beyond.missingfiles	<p>このパラメータを使用すると、 SnapManager で不足しているアーカイブログファイルをバックアップに含めることができます。アクティブファイルシステムに存在しないアーカイブログファイルは、バックアップに含まれません。アクティブファイルシステムに存在しないアーカイブログファイルも含め、すべてのアーカイブログファイルを含める場合は、 backup.archivelogs.beyond.missingfiles に true を割り当てる必要があります。</p> <p>欠落しているアーカイブログファイルを無視するには、 false を割り当てます。</p>
srvctl.timeout の指定です	<p>このパラメータでは、 srvctl コマンドのタイムアウト値を定義できます。* 注： * Server Control ( srvctl ) は RAC インスタンスを管理するユーティリティです。</p> <p>SnapManager が srvctl コマンドの実行にタイムアウト値よりも時間がかかると、 SnapManager 処理が失敗して次のエラーメッセージが表示されます。 Error : Timeout occurred while executing command : srvctl status</p>
snapshot.restore.storageNameCheck です	<p>このパラメータは、 Data ONTAP 7-Mode から clustered Data ONTAP に移行する前に作成された Snapshot コピーを使用して、 SnapManager がリストア処理を実行できるようにします。パラメータに割り当てるデフォルト値は false です。 Data ONTAP 7-Mode から clustered Data ONTAP に移行したあとに、移行前に作成された Snapshot コピーを使用する場合は、 snapshot.restore.storageNameCheck=true を設定します。</p>
services.common.disableAbort	<p>このパラメータは、長時間実行されている処理が失敗した場合にクリーンアップを無効にします。 Oracle のエラーが原因でクローニング処理に時間がかかって失敗する場合は、 services.common.disableAbort=true の例を設定して、クローナをクリーンアップしないようにすることができます。 services.common.disableAbort=true を設定した場合、クローナは削除されません。 Oracle 問題を修正して、障害が発生したポイントからクローニング処理を再開できます。</p>

- backup.sleep.DNFS レイアウト
- backup.sleep.dnfssecs

これらのパラメータは、Direct NFS（dNFS）レイアウトでスリープメカニズムをアクティブにします。dNFS またはネットワークファイルシステム（NFS）を使用して制御ファイルのバックアップを作成したあと、SnapManager は制御ファイルの読み取りを試行しますが、ファイルが見つからない可能性があります。スリープメカニズムを有効にするには、`backup.sleep.DNFS.layout=true` を確認してください。デフォルト値は `true` です。

スリープメカニズムを有効にする場合は、`backup.sleep.dnfssecs` にスリープ時間を割り当てる必要があります。割り当てられたスリープ時間は秒単位で、値は環境によって異なります。デフォルト値は 5 秒です。

例：

- `backup.sleep.DNFS.layout=true`
- `backup.sleep.dnfssecs=2`

- override.default.backup.pattern
- new.default.backup.pattern

バックアップラベルを指定しない場合、SnapManager はデフォルトのバックアップラベルを作成します。これらの SnapManager パラメータでは、デフォルトのバックアップラベルをカスタマイズできます。バックアップラベルのカスタマイズを有効にするには、`override.default.backup.pattern` の値が `true` に設定されていることを確認してください。デフォルト値は `false` です。

バックアップラベルの新しいパターンを割り当てるには、データベース名、プロファイル名、スコープ、モード、ホスト名などのキーワードを `new.default.backup.pattern` に割り当てます。キーワードはアンダースコアで区切る必要があります。たとえば、`new.default.backup.pattern=dbname_profile_hostname_scope_mode` などです。



タイムスタンプは、生成されたラベルの末尾に自動的に追加されます。

allow.underscore.in.clone.sid	<p>Oracle では、 Oracle 11gR2 のクローン SID でアンダースコアを使用できます。この SnapManager パラメータでは、クローンの SID 名にアンダースコアを含めることができます。クローンの SID 名にアンダースコアを含めるには、allow.underscore.in.clone.sid の値が true に設定されていることを確認します。デフォルト値は true です。</p> <p>Oracle 11gR2 より前のバージョンの Oracle を使用している場合やクローンの SID 名にアンダースコアを含めない場合は、この値を false に設定します。</p>
oracle.parameters.with.comma	<p>このパラメータを使用すると、カンマ (,) を含むすべての Oracle パラメータを値として指定できます。任意の操作を実行する SnapManager では、oracle.parameters.with.comma を使用してすべての Oracle パラメータをチェックし、値のスプリットをスキップします。</p> <p>たとえば、 NLS_NUMERTH_characters = の値の場合は、 oracle.parameters.with.comma=nls_numeric_characters を指定します。複数の Oracle パラメータがあり、値がカンマである場合は、 oracle.parameters.with.comma ですべてのパラメータを指定する必要があります。</p>

- archivedLogs.exclude
- archivedLogs.exclude.fileslike
- <db-unique-name>.archiveLogs.exclude.fileslike

これらのパラメータを使用すると、Snapshot コピーが有効なストレージ・システム上にないデータベースで、SnapManager 処理を実行する場合に、SnapManager がプロファイルおよびバックアップからアーカイブ・ログ・ファイルを除外できます。\* 注：\* を作成する前に、構成ファイルに除外パラメータを含める必要があります プロファイル（Profile）：

これらのパラメータには、最上位のディレクトリまたはアーカイブログファイルが存在するマウントポイント、あるいはサブディレクトリの値を割り当てることができます。

アーカイブ・ログ・ファイルをプロファイルに含めてバックアップ対象から除外するには、次のいずれかのパラメータを指定する必要があります。

- ArchiveLogs.exclude : すべてのプロファイルまたはバックアップからアーカイブログファイルを除外するための正規表現を指定します。

正規表現に一致するアーカイブログファイルは、すべてのプロファイルおよびバックアップから除外されます。

たとえば、archivedLogs.exclude=J:\arch\\*. を設定できます。



宛先にファイル区切り文字がある場合は、追加のスラッシュ記号（\）をパターンに追加する必要があります。また、パターンの末尾には二重スラッシュパターン（\\.\*）を使用する必要があります。

- archivedLogs.exclude.files すべてのプロファイルまたはバックアップからアーカイブログファイルを除外するための SQL 式を指定する場合に使用します

SQL 式に一致するアーカイブログファイルは、すべてのプロファイルとバックアップから除外されます。

たとえば 'archiveLogs.exclude.fileslike =J:\\ARCH2\\% を設定できます



宛先にファイルセパレータがある場合は、追加のスラッシュ記号（\）をパターンに追加する必要があります。また、パターンの末尾には二重スラッシュパターン（\\%）を使用する必要があります。

- <db-unique-name>.archivedLogs.exclude.files 指定した db-unique-name でデータベース用に作成されたアーカイブログファイルだけをプロファイルから除外する SQL 式、またはバックアップを指定します。

SQL 式に一致するアーカイブ・ログ・ファイルは、プロファイルおよびバックアップから除外されます。

たとえば、mydb.archiveLogs.exclude.fileslike = J : \ARCH2\% を設定できます。



宛先にファイルセパレータがある場合は、追加のスラッシュ記号（\）をパターンに追加する必要があります。また、パターンの末尾には二重スラッシュパターン（\\%）を使用する必要があります。

## 設定パラメータを編集する

環境に応じて、構成パラメータに割り当てられているデフォルト値を変更することができます。

1. 次のデフォルトの場所から構成ファイルを開きます。

デフォルトのインストール場所 \properties\smo.config

2. 設定パラメータのデフォルト値を変更します。



構成ファイルに含まれていないサポート対象の構成パラメータを追加して、値を割り当てることもできます。

3. SnapManager for Oracle サーバを再起動します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。